



磐船祭祭祀遺跡

市指定史跡。御沼(見沼)を御手洗瀬として古代より斎行されていた根本祭礼「御船祭」の場所を、享保十二年(一七二七)の見沼干拓を機に、四本竹跡地から現在の遺跡場に移設。平成三年の発掘調査で四本竹跡地に七百九十本の竹が発見されたが、これは御船祭の二百回分、隔年斎行なので四百年分となり、干拓から遡ると少なくとも鎌倉末期から続けられていたことが立証されている。御船祭は干拓後は磐船祭、昭和期に祇園祭として継承され、平成十七年に各祭を統合し、祇園磐船竜神祭として盛大に復活した。



祇園磐船龍神祭

人生儀礼

人生の節目には、神社にお参りいたしましょう。各種祈願を承ります。

- 初宮詣
 - 家内安全
 - 地鎮祭
 - 交通安全
 - 厄除け
 - 結婚式
 - 祖霊祭
 - 七五三詣
 - 商売繁昌
 - 竣工祭
 - 神棚奉斎
 - 病氣平癒
 - 還暦報告祭
 - 神葬祭
- その他諸祭

巫女人形



天然の素材だけで一体一体を手作り。心願成就時には、御着物を着せ神社に返納する御礼詣りを必ずしましょう。全国で当社だけのオリジナルです。

交通の御案内

国際興業バス
 浦和駅発『さいたま東営業所 行き』所要時間25分 『朝日坂上』下車
 東浦和駅発『さいたま東営業所 行き』所要時間10分 『朝日坂上』下車



さいたま市緑区宮本2-17-1 ☎048-874-6054

武蔵国一宮 女體宮

道しるべ (弘化二年)



富興業所の印



将軍の直命で再建した一宮の社殿を維持・修復するための費用は、江戸の各神社で富くじを開催しその収益金を充当。その富興業所の証明印。

全国一宮巡りの開祖

橋三喜

江戸時代前期の著名な神道家で『二宮巡詣記』著者。旧神主家墓地に眠る。



鎮座地

埼玉県さいたま市緑区宮本

御祭神

奇稲田姫尊
クシイナタヒメノミコト

配祀

三穂津姫尊
ミホツヒメノミコト
オオナムチノミコト
大己貴尊

主な祭礼

■一月一日 歳旦祭
サイタンサイ

■二月十八日 祈年祭
キネンサイ

■五月四日 午後一時半より
祇園磐船龍神祭
ギオンイワフネリユウジンサイ

古来より御沼(見沼)で斎行されていた御船祀りが現在は磐船祭祭祀遺跡で執り行われている。

■七月三十一日 午後三時より

名越大祓い
ナゴシノオオハラ
さいたま市の
無形民族文化財指定



みな月の名越しの祓えする人は
千年の命のぶと言ふなり

■十月八日 例大祭

■十一月二十三日 新嘗祭
ニイナメサイ

■十二月二十五日より
かまめ頒布
ジメハンブ

由緒

第十代崇神天皇の御代に創建(武州一宮女躰宮御由緒書)。古墳時代の作とされる鉄鈴等が伝承されており、古代より当社が存在していたことを示す。武蔵国一宮として、特に中世以降武士の崇敬が篤く、北条氏や徳川氏等からの多くの奉納品や歴史資料を所蔵しており、現代でも「武蔵野の正倉院」と称される。江戸時代にも名所図会に掲載され多くの参拝者が訪れていた。

主な社宝

- ・三鱗文兵庫鎖太刀(寛喜三年 一一三一 北条泰時奉納)
- ・大般若波羅蜜多經(正慶二年 一三三三)
- ・北条氏綱制札(大永四年 一五二四)
- ・北条氏朱印状(元龜三年 一五七二)
- ・徳川家康社領寄進状(天正一九年 一五九二)
- ・徳川歴代將軍発行の朱印状(十二通) 他



神輿
県指定文化財(桃山時代)

社殿

三間社流れ造り。現在の御社殿は徳川四代將軍家綱公が寛文七年(一六六七)に忍城主阿部忠秋に命じて再建。現存する棟札には「武蔵国一宮簸河女躰大明神社、征夷大將軍源朝臣家綱公御再興阿部朝臣忠秋奉、寛文七丁未六月十二日御遷座」と明記されている。平成十九年県指定文化財。平成二十四年(第一期)、二十七年(第二期)で修復工事が完成。

社叢

- ・県指定 ふるさとの森
- ・市指定 天然記念物

竜神

見沼の主であった竜を女體様の守護神として竜神社に奉斎。さいたま市のPRキャラクター、つなが竜ヌウは当社竜神様の子孫。祭祀遺跡を取り囲む池には、竜に出世する前の鯉が今も泳ぐ。



江戸名所図会



牡丹唐草文瓶子
県指定文化財 東京国立博物館寄託(室町時代)



三鱗文兵庫鎖太刀
国認定重要美術品、県指定文化財(鎌倉時代末期)